



宗像市社会福祉協議会

たがいに支え合った50年 これからも

ふだんのくらしのしあわせづくりを みなさんとともに…。

宗像市社会福祉協議会は法人化50周年の節目を迎えました。



今だからこそ

社協のチカラの見せ所

ごあいさつ

本会は、昭和45年6月に社会福祉法人として認可を受け、法人化50周年という節目を迎えることができました。これまで、多くの関係機関、団体、ボランティアの方々のご支援・ご協力をいただきながら、その時代時代の福祉課題に目を向け、地域の皆さまとともに、取り組んでまいりました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

皆さまから親しく『社協』と呼ばれる本会「宗像市社会福祉協議会」は、地域福祉を推進する民間団体として位置づけられ、さまざまなたががりを築いてきました。これからの地域社会は、少子高齢化とともに、現役世代の減少という構造的な社会問題が想定されています。地域福祉を担う「ひと・もの・かね」(社会資源)が減少していく中、認知症の人や障がいのある人、生活困窮や引きこもり傾向にある人などの地域生活をどのように支えるのが本会としても問われています。

新型コロナウイルス感染症により、人と人との交わりが制限されている状況の中ですが、本会は公的な福祉サービスで対応できないさまざまな生活課題に対して、地域と「つながる」ことを諦めず、感染防止策を講じながら、これからも「支え合いの地域づくり」に取り組んでまいります。

皆さまにおかれましても、引き続き「支え合いの地域づくり」にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

宗像市社会福祉協議会 会長

よしだ ますみ
吉田 益美

プロフィール 元宗像市議会議員。現在もスポーツ推進員、ユリックス理事を務めている傍ら、「はまゆうの会」で高齢者への配食ボランティア活動に携わる。特技は卓球と津軽三味線。趣味は海藻採取と魚さばき。何よりも人とのつながりを大切にしている。

社協ゆかり

PEOPLE

社協にゆかりのある方々に
社協の今後に期待することをインタビュー!!

駆け込み寺のような存在で



宗像市障がい児者親の会
あゆみの会
小川 久美子さん

市民の身近な存在であること



宗像市
福祉ボランティア活動連絡協議会
会長
坂梨 千尋さん

地域の
ご意見番として



宗像市地区福祉会連絡協議会
監事
武丸 正昭さん

社会福祉協議会との付き合いは、民生委員に就任した20年ほど前からになります。社会福祉協議会の職員と一緒に、他地域の活動を参考にするため福祉会で何度も研修に行きました。私は、社会福祉協議会にも育ててもらった部分も多く、お礼の意味もあり現在も一緒に活動しています。地域の活動にはリーダーが必要で、後継者を育てることも重要です。社会福祉協議会は、地域に向けて常に情報を発信し、福祉会へ対して助言だけではなく意見も遠慮なく言ってもらいたいと思います。



福祉会会長時代の武丸さん

平成11年より吉武地区の民生委員を3期9年務め、その後は吉武地区福祉会会長や自治会長としても活躍された。現在も、宗像市地区福祉会連絡協議会の監事として、地区福祉会活動へ長年にわたり関わり続けている。

社会福祉協議会の魅力は、一人の方が息の長い支援をしてくださるところだと思います。実際のところ、協議会に所属する11グループも、そのおかげで地域福祉の一助となり活躍できていると感じています。地域福祉の縁の下での力持ちで普段は目立たない社協ですが、たまには一人一人の活躍をアピールしてみることも、市民の身近な存在として感じられて良いのではないのでしょうか。地域福祉活動を巡る社会情勢は変化し続けており、私たちボラ連はボランティアセンターの助言・ご支援がますます必要となります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ボラ連の役員の皆さん

宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会は、昭和60年に発会以降、福祉分野を軸に「誰かのため」のボランティア活動はもちろん、互いに支えあい、助け合う心を大事にして温かみのある住みよい宗像市になることを目指して活動している。

あゆみの会に入会した当時は、会員みんなで協力し障がい者のより良い暮らしを実現するため、活動していたことを思い出します。その当時から、社会福祉協議会の職員の方々にはいろいろと支えていただき、私たちの活動には欠かせない存在でした。お世話になったお返しに、今も活動を続けています。社会福祉協議会は福祉や介護に関する専門性が高い組織だと思います。今後いろいろな困りごとを抱えた人の『駆け込み寺』のような存在であってほしいと願っています。



小川さんファミリー

あゆみの会(宗像市内の障がい児・者の親の会)の会員として長年活動され、代表も務めた経験を持つ。現在は、本会の権利擁護事業を担う市民支援員や障害者生活支援センターの在宅ピアサポーターとしても活躍されている。



ピアサポート事業



窓口の様子

相談からはじまる支援

宗像市障害者生活支援センター 宗像市障害者虐待防止センター

市内在住の障がいのある人やその家族のさまざまなニーズに対応する総合相談窓口として宗像市役所福祉課内に開設しています。地域の障がい福祉に関する相談支援の中核的な役割を担う「基幹相談支援センター」と、障がいのある人の虐待に関する通報・相談対応、虐待防止に関する啓発などを行う「宗像市障害者虐待防止センター」の機能も備えています。

また、障がいのある当事者・家族の相談員「ピアサポーター」が、身近な相談相手としての活動をしており、情報誌「すまいる」の発行、交流行事「ピアサポート事業」も行っています。(ピア=仲間という意味)

地域の「つながり」と「支え合い」づくりをめざす

総務福祉係

福祉会

福祉会の活動は地域福祉の根幹を担う、「福祉の里」づくりの大きな柱として位置づけた取り組みです。この福祉の里づくりをめざすため、昭和62年に「小地域福祉会組織化事業」を開始しました。

また、一人暮らしの高齢者等の見守り訪問活動(小地域ネットワーク活動)をはじめ、高齢者の介護予防としての集いの場「いきいきふれあいサロン」の運営に取り組んでいます。

福祉教育の取り組み

福祉教育は、昭和60年「福祉教育推進校指定事業」に始まりました。

平成17年度に、「福祉教育推進計画」を策定、平成23年度には第2次、平成28年度に第3次福祉教育推進計画を策定し、幼児から高齢者まで生涯学習としての福祉教育の推進に取り組んでいます。

また、地域への情報の発信や啓発活動、体験学習指導者の派遣、ボランティア団体や当事者とのコーディネートなど、福祉教育の推進に必要な事業をすすめてきました。

ノーマライゼーションの理念に基づいた、ともに生きる社会＝「地域共生社会」という捉え方に視点を置き、単に体験学習だけではなく、実際に見たり聞いたり、交流を通じてさまざまな分野の人とのかかわりの中で、福祉教育をすすめています。

地域福祉権利擁護事業(福岡県日常生活自立支援事業・ライフサポート事業)

認知症状などがある高齢者や、知的障がい、精神障がいのある人で、判断能力が不十分なため、福祉サービスの手続きや、公共料金の支払い、日常の金銭管理等、日常生活を送るのに困っている人の支援を行う事業です。

福岡県社会福祉協議会が実施する福岡県日常生活自立支援事業は平成16年度より、本会独自事業であるライフサポート事業は平成25年8月より取り組んでいます。地域福祉権利擁護事業に取り組み始めた当初の利用者は10人でしたが、現在では約50人の支援を行っています。



生活支援員によるサポートの様子



見守り訪問活動



福祉教育での高齢者疑似体験

【地区福祉会結成の歴史】

- 昭和63年4月 自由ヶ丘地区福祉会
- 昭和63年10月 吉武地区福祉会
- 平成元年11月 南郷地区福祉会
- 平成2年2月 日の里地区福祉会
- 平成6年6月 東郷地区福祉会
- 平成7年6月 河東地区福祉会
- 平成9年10月 赤間地区福祉会
- 平成10年7月 赤間西地区福祉会
- 平成15年9月 神湊地区福祉会
- 平成15年11月 池野地区福祉会
- 平成15年11月 岬地区福祉会
- 平成16年1月 田島地区福祉会
- 平成17年2月 大島地区福祉会

在宅福祉時代から介護を支える

ホームヘルプステーション・居宅介護支援センター

ホームヘルパーは、介護保険制度が実施される以前の「在宅福祉」の時代から「家庭奉仕員」として、在宅での介護を支えてきました。平成12年度の介護保険制度の施行にともない、新たに「居宅介護支援事業」と「要介護認定調査」を開始しました。介護保険制度スタート時から「公民共同体」である社会福祉法人として、介護保険制度の健全な運営と成長に貢献してきた経験を活かし、今後も高齢者や障がいのある人への支援事業の継続と充実を目指します。



訪問介護の様子

ボランティア活動の推進を担う

宗像市ボランティアセンター

「手話講習会」「車いす移送車貸出」「おもちゃ図書館」「声の広報配布」各事業をはじめ、市受託事業「V-netむなかた」の運営など、ボランティア団体と協力・協働し、ボランティアに関するさまざまな相談や調整を行っています。他にも情報紙の発行や、ボランティアに関する講座(福祉ボランティア養成講座・入門講座・高校生ボランティアスクール・ジュニアボランティアスクール)を開催し、関係団体への支援など幅広く取り組んでいます。また、「宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会」は、長きにわたって共に住民主体の地域福祉活動を推進しているパートナーです。



ジュニアボランティアスクールで高齢者施設を訪問

島の暮らしのそばに

大島支所(ふれ愛センター)

平成11年度に完成した大島福祉センター(ふれ愛センター)に移転した旧大島村社協は、平成17年の市町村合併にともない、宗像市社会福祉協議会大島支所になりました。週3日のデイサービスは今現在も継続し、ヘルパー事業、配食サービスも含め、島の人たちにとって重要な役割を担っています。



大島ミニデイサロン

みんな違ってみんないい

宗像市発達支援センター療育施設 のぞみ園

在宅の障がいのある子どもたちの教育の場を保障するため「訪問教育」という形で始まった「のぞみ園」。その後、市から委託を受け、今の「通園」という形になりました。子どもたちの状況や人数、療育の内容などは時代と共に様変わりしても、園からあふれる子どもたちの笑い声や笑顔は同じです。苦手な事もあるけれど、どうすれば挑戦できるか、どんな支援が必要なのかを保護者と一緒に考え試してみる場所です。



言語聴覚士による個別療育



専門指導員によるプール療育



←より詳しい宗像市社協の情報はこちらから

宗像市社会福祉協議会のあゆみ

- 2020 令和2年度 法人化50周年
- 2019 令和元年度 生活支援体制整備事業を受託
- 2018 平成30年度 宗像市社会福祉法人連絡会設立
- 2017 平成29年度 認知症サポーター活動支援事業を受託(オレンシカフェの展開等)
- 2015 平成27年度 第四次地域福祉活動計画策定
- 2013 平成25年度 ライフサポート事業開始
- 2010 平成22年度 第二次地域福祉活動計画策定
- 2010 平成22年度 第三次地域福祉活動計画策定
- 2012 平成24年度 宗像おもちゃ図書館がメイトム宗像別館にてリニューアル
- 2004 平成16年度 宗像市・大島村社会福祉協議会合併(平成17年3月31日)
- 2002 平成14年度 宗像市・玄海町社会福祉協議会合併(平成15年3月31日)
- 2000 平成12年度 「障害者生活支援センター」開設
- 1999 平成11年度 「大島ふれあいセンター」完成、旧大島村社協移転
- 1999 平成11年度 旧玄海町社協移転
- 1999 平成11年度 「ゆつゆつくら」完成、旧玄海町保健福祉会館
- 1998 平成10年度 「メイトム宗像」が完成、本会移転
- 1998 平成10年度 総合保健福祉センター「メイトム宗像」が完成
- 1996 平成8年度 「第一次地域福祉活動計画」策定
- 1996 平成8年度 「第一次地域福祉活動計画」開始
- 1988 昭和63年度 社会福祉センターが完成、本会移転
- 1988 昭和63年度 愛のネットワーク活動、福祉の里「つくり」事業開始
- 1985 昭和60年度 福祉ボランティア活動連絡協議会設立
- 1986 昭和61年度 福祉教育推進事業開始
- 1982 昭和57年度 ボランティア養成講座開始(以降各種ボラ講座開催)
- 1981 昭和56年度 旧宗像市が市政移行
- 1979 昭和54年度 「母子学級」のぞみ園を設置
- 1975 昭和50年度 宗像市話講習会開講
- 1974 昭和49年度 老人家庭奉仕員(現在のホームヘルパー)派遣事業開始
- 1970 昭和45年度 旧宗像町社協が社会福祉法人として認可

